

## 編集後記

高齢化社会を迎えるにあたり、社会福祉におけるロボット応用の期待が高まる中で、20年ほど前にロボット・セラピーの研究が始まりました。その後、介護現場におけるコミュニケーションロボットに関する研究は、ロボット・セラピー部会を中心に続けられておりますが、本誌における関連特集は、51巻7号（2012年発行）の「ロボット・セラピー」以来となります。今号の特集では、それ以降の研究成果について紹介するとともに、今後の方向性についても座談会などを通して議論しています。介護ロボットの導入が進んでいない現状をどのように打開するのか、その糸口を探りたいとも考え、ニーズ側、シーズ側、海外の研究者など、さまざまな立場からロボット・ICTを活用した高齢者のコミュニケーション・ケア支援についてご寄稿いただきました。ただ、この問題は、やはり「ロボットに介護されたいのか？」ということに行き着くことが、本特集の企画・編集を

進める中で、よくわかりました。技術進歩が著しい生成AIが身近な存在になっていく中で、この問題を改めて深く考えていかなければならないと思っております。本特集を通して、一人でも多くの読者の方に高齢者のコミュニケーション・ケア支援などの介護技術に興味をもっていただき、関連分野のさらなる発展につながることを期待しております。

ロボット・セラピー部会や執筆者の皆様のご尽力に支えられ、本特集を完成させることができました。心よりお礼申し上げます。特に、本特集の企画の方向性や執筆者を決めるにあたって、多くのご意見を賜りました浜田利満先生に深く感謝いたします。最後に、本特集の企画に当たって、有益な助言や、内容についての激励をいただいた会誌出版委員会、学会事務局、編集事務局の皆様にも感謝申し上げます。

(板井 志郎 記)

### ◇第63巻第10号（2024年10月号） 予定目次◇

一般記事	解 説 ファジィ推論モデル（仮題）	関 宏理（大阪大）
リレー記事 「FACE the future」《第69回》プライバシーにおける使いやすさと向き合う	解 説 進化計算による実世界システムの最適化	佐藤寛之（電通大）
井手絢絵（Penn State）		
特集 モデリング×インテリジェンスの最新動向を探る	解 説 レジリエンスにおけるモデリングとインテリジェンス	
—CIFSの活動を中心に—		藤井信忠（神戸大）、玉置 久（神戸大）
総 論 モデリングとインテリジェンスの協働	解 説 リアルスケール社会シミュレーションのためのモデリングとインテリジェンス	村田忠彦（大阪大）
関 宏理（大阪大）、村田純一（九州大）	解 説 進化計算とサロゲートモデル—ケムインフォマティクスでの応用—	半田久志（近畿大）
解 説 CIとモデリング—モデル内包学習を中心として—（仮題）		
黒江康明（同志社大／工繊大）		
解 説 医療応用における計算知能とモデリング		
本間経康（東北大）		

### （第63巻第9号）

特集号編集WG：伊藤博通（神戸大学）、大塚章正（山口東京理科大学）、西川 鋭（九州大学）、田中基康（電気通信大学）、井上 淳（東京電機大学）、堀内哲也（産業技術総合研究所）、板井志郎（広島工業大学：幹事）

### 2024年度 会誌出版委員会（五十音順）

委員長：山下 智輝

副委員長：小木曾公尚

飴谷 充隆	伊藤 博通	伊藤 優司	井上 淳	伊吹 竜也	大谷 雅之	大塚 章正
岡島正太郎	岡本 有司	尾山 匡浩	川喜田佑介	川瀬 利弘	久下本秀和	関 宏理
田中 基康	豊田 充	西川 鋭	西野 敦洋	長谷川圭介	堀内 哲也	堀川徳二郎
宮廻 裕樹	保田 俊行	山田 広明	吉野 公三			